

寄附金の使い道

錦江町 MIRAI 寺子屋塾

昨年7月から始まった公営のWEB遠隔授業「MIRAI 寺子屋塾」。民間塾への通塾が厳しい錦江町でも、ICTを活用して教育格差解消を進めています。未来を担う子どもたちが夢をあきらめずにチャレンジできる環境整備を今後も整えていきます。



小児・産婦人科オンライン

スマホで小児科医に無料で相談できる「小児科オンライン」も、ふるさと納税寄附金が使われています。町内に小児科医が不在でも安心して暮らせるための取り組みを進めています。

生まれ育った町や応援したい町を自分の意思で選んで納税できる制度として、平成20年に創設されたふるさと納税。「納税」という呼び名ですが、実際には自治体への寄附で、離れていても「ふるさと」を応援できる制度です。寄附額から2千円を除いた全額が翌年の所得税や住民税から控除され、さらに寄附した自治体から返礼品として地域の特産品などが届くことから、今では2兆円規模と言われるまで市場が拡大しています。

ふるさと納税は、運用当初から寄附金の「使い道」や「使うべき対象」を住民とともに何度も議論を重ね、平成29年にふるさと納税寄附条例を制定。寄附金を活用した公営塾や小児科オンラインなど、困りごと解消に向けた取り組みへの共感から、寄附額も毎年増えています。

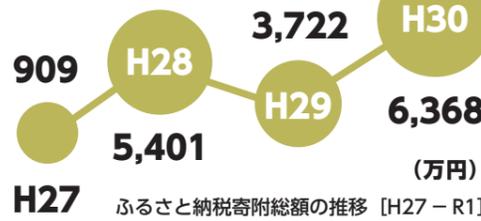
R1
1億8,856



ふるさと納税担当
未来づくり課 川前亮

新たな魅力を創出する
返礼品の発注や管理を外部委託から独自運用に切り替えてから返礼品の種類や数が増えたと話す担当者が「寄附者の声や事業者の思いが共有できるので商品開発にもつながっている」と手応えを感じています。事業者がお互いに連携して生ハムとワインのセット商品が生まれるなど、ふるさと納税をきっかけに地域がつながり、まちが誇る逸品同士が新たな魅力を作り始めています。

※控除の上限額は収入や家族構成によって異なります



特集 ふるさと納税から見えた

まちが誇る逸品



昨年度、全国から寄せられた「ふるさと納税」は5,900件以上、総額1億8,856万円と前年度の約3倍。寄附金を地域課題の解決に活用できるのはもちろん、返礼品として送られる農産物や特産品を通じて、まちのPRや知名度向上にもつながっています。今月号は返礼品、つまり「まちが誇る逸品」にスポットを当てました。

寄附総額の内訳

寄附者が選んだ、地域課題解決に向けて使ってほしい4つの対象内訳がコチラ

3 対象
高齢者の社会貢献
1,809万円

住みなれた地域で元気に生活しながら、高齢者も社会で活躍できる場を創出する事業に活用します



1 対象
子どもたちの未来
1億1,193万円

教育や福祉の充実を図り、社会の担い手である子どもたちの育成に関する事業に活用します

4 対象
移住・交流の取組み
914万円

交流人口や関係人口の増加に向けた「つながり」を構築し移住・定住を推進する事業に活用します



2 対象
地域経済の活性化
4,604万円

事業の継承や起業支援、新産業・新商品開発など、地域経済の活性化に関する事業に活用します

その他町長がふるさとづくりに必要と認める事業 **336万円 (374件)**

寄附件数 前年比 **245%** 寄附金額 前年比 **296%** 寄附総額 **1億8,856万円**



寄附者へは毎年「使い道」を報告
頂いた寄附金の使い道と一緒に、生産者の思いや住民の声も寄附者へお送りしています。まちづくりへの共感が「ファン創出」につながるはず。

放課後の小学校を活用した公営塾「MIRAI 寺子屋塾」がスタート。使用するパソコンやタブレット端末は、自治体版クラウドファンディングで資金を調達して購入。



R1 寄附総額 ▶ 1億8,856万円

R1 年度
放課後の小学校を活用して
待望の公営塾スタート

住民公募によるコンテストで選ばれた「使い道」の提言を受け、小児科オンラインがスタート。管理業務の直営化で事業者数も増え、返礼品の数は200商品を超えた。



H30 寄附総額 ▶ 6,368万円

H30 年度
寄附金の「使い道」を募集
小児科オンライン開始

平成29年9月に条例を制定し、使うべき4つの対象が決定。委託していた発注業務などを直営化した。返礼率が5割から3割に見直され、一時的に寄附額も減少した。



H29 寄附総額 ▶ 3,722万円

H29 年度
ふるさと納税寄附条例制定
4つの使う対象が決定

錦江町でも本格的にふるさと納税の運用がスタート。寄附総額は前年度の6倍、返礼品の数も2倍以上に増えた。返礼率も5割となり、自治体間の返礼品競争が激化。



H28 寄附総額 ▶ 5,401万円

H28 年度
寄附額6倍、返礼品数2倍に
本格的に運用スタート

ふるさと納税 これまでを振り返る

本格的に制度運用がスタートした平成28年度から、寄附総額1億円を突破した昨年度まで振り返ります。この間に、寄附件数は約2倍、返礼品の数は約4倍と年々増え続けています。